

様式第6号(第21、22条関係)

開 催 記 録

名 称	令和3年度第1回吉川市下水道事業審議会
開 催 日 時	令和3年7月28日(水) 午後 2時00分から 午後 3時15分まで
開 催 場 所	吉川市市民交流センターおあしす ミーティングルーム4
出 席 者 数	6名 出席委員：菊池委員、小山委員、伊藤委員、大泉委員、 佐々木委員、大矢委員 欠席委員：戸張委員、阿部委員、飯塚委員、中島委員、中島委員
説 明 員 氏 名	
担当課職員職氏名	吉川市長 中原 恵人 河川下水道課 課長 多田 文武、課長補佐 曾我 幸央
次 第	別添参照
資 料 の 名 称	別添参照
開催記録の作成方法	<input type="checkbox"/> 録音機器を使用した全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 録音機器を使用した要点記録 <input type="checkbox"/> 要点記録
内 容	<p>■市長あいさつ</p> <p>昨年度の経営戦略策定にご尽力いただきありがとうございました。下水道事業は市民生活に欠かせないものであり、持続可能なことが重要であると考えている。下水道使用料についても今後、しっかりと目を向けていかなくてはならない。そういった視点を持って、令和2年度の決算に関して貴重な意見をいただきたいと考えている。本日はよろしく願いいたします。</p> <p>■議事</p> <p>令和2年度吉川市下水道事業決算について 事務局より「令和2年度吉川市下水道事業決算」について説明。</p> <p>【質疑応答】</p> <p>小山委員：下水道使用料の増加要因がコロナ禍における在宅時間の増大によるものとの説明だったが、感覚的にはもっと伸びてもいいのかと思うがいかがか。</p>

事務局：令和2年度4月の下水道使用料は前年度同月比で10%以上の増加となっている。しかしながら、年度の後半においては伸び率が鈍化していることから、令和2年度の増加分については、在宅時間の増大によるものと考えている。

小山委員：吉川美南駅東口における工事については、計画的に工事費が組まれているかと思うが、増える要素はあるか。

事務局：工事費については経営戦略にも盛り込んであり、今後計画的に事業を進める予定ではあるが、工事を進めていくうえで、突発的な工事内容の変更により事業費が変更となる可能性はあると思われる。

大矢委員：吉川美南駅東口土地区画整理事業地内に下水道施設を整備しているとのことだが、この地区から下水道使用料を徴収できないと施設整備した分を回収できない。この地区の整備状況及び土地利用計画はどのようになっているのか。

中原市長：吉川美南駅東口土地区画整理事業は10年計画、事業費180億円で事業を進めている。産業ゾーン、商業ゾーンについては、地権者が早期に建物を建てていくと思われるが、住居ゾーンについては、計画人口を4400人で計画している。地権者がどのようなタイミングで住宅建設していくかは、市としてはコントロールできないが、早期に使用収益を開始できるよう事業を進めていく。

菊池会長：使用料収入は伸びているが、人口及び処理区域人口は伸びているもののそれほど、大きな数値ではない。今回増加した下水道使用料はコロナによる一過性のものであり、今後は人口減少が始まり、下水道使用料が減少していくことを前提として考えていかななくてはならないと考える。

また、区画整理において住宅地を拡大しても、最近では節水型の住宅が多く、下水道使用量が思ったほど多くなならない。そのあたりも踏まえて事業を進めていく必要があると思われる。

昨年度については、コロナの影響により、有収水量が増え、降雨量が少なかったことにより、不明水量が減ったことにより、有収率が向上したと思われる。今後、管渠が老朽化することにより、ますます不明水量が増え、雨水のために流域下水道負担金が増えていくこと予想される。それを解消するためには管渠の更新を図るしかなく、計画的に管渠

	<p>の更新を進めていく必要がある。</p> <p>中原市長：不明水については、吉川市だけの問題ではないので、流域下水道における構成市町と意見交換しながら、何か良い案がないか模索していきたい。</p> <p>伊藤委員：下水道使用量の伸びがコロナ禍の在宅時間の増大であると考えられる根拠は何か</p> <p>事務局：下水道接続人口の増加以上に下水道使用料が伸びていることと令和2年度4月の下水道使用料は前年度同月比で10%以上の増加となっていることから、コロナによる影響が大きいものとする。</p> <p>伊藤委員：下水道使用料の徴収状況についてはどうか</p> <p>事務局：下水道使用料の徴収率は99%を超えており、特段問題がないものとする。</p> <p>菊池会長：キャッシュフロー計算書における財務活動によるキャッシュフロー総額がマイナスとなっていない。ということは借入残高が増大していることを表している。また、企業債の内訳をみると資本費平準化債をかなり活用している。今後、借入残高を減少させていく必要があり、資本費平準化債は次世代に負担が大きくなるものであることから資本費平準化債の借入額を検討していくべきかと考える。</p> <p>■その他</p> <p>今後のスケジュールを事務局より説明。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「令和2年度吉川市下水道事業決算」について 今後、監査委員による検査を経て、9月議会に上程し、決算の認定となる予定である。 ・「令和3年度第2回吉川市下水道事業審議会」について 令和4年度当初予算案を議案として、令和4年1月下旬ごろ開催予定
--	--

署名委員

氏名

印

氏名

印
